



◇今年は卯年◇

兎は繁栄の象徴

十二支では「卯（うさぎ）」と書き、動物の「兎（うさぎ）」のことですが、同じ「うさぎ」でも漢字にすると印象が大きく異なるものです。

卯年は、芽を出した植物が成長して茎や葉が、私達が目に見て感じる年とも云われます。兎は、飛び跳ねて移動するので、「飛躍の象徴」ともなります。

また、多くの子を産む兎年は豊穰と子孫繁栄のシンボリックな見方もされます。新型コロナウイルス感染症の脅威は、完全に払拭したわけではありませんが、万全の対策をとりながらも兎年に相応しい躍動の年にしたいものです。

◇勘ピューターからの脱却を◇

勘ピューターからコンピューターに

昨今は、住宅営業マンがお施主様と対面しながらその要望を、ノートパソコンのCADに打ち込み、その場で三次元図面まで作り上げます。

そして指先一本、クリックひとつで積算までやってのけます。そのような時代に地域工務店一部では、お施主様と打ち合わせをして持ち帰り、図面を書いて見積もりを行うまで相当の期日を要します。

その間にCADを使いこなすビルダーには完全に遅れをとってしまいます。団塊世代の工務店経営者が云う「(勘)コンピューター」などは、既に通用しない時代になっているのかも知れません。

工務店経営者にはこの時代に見合った感性を発揮し難しくなっているようです。それでも勘ピューターで培った信用と信頼は、それなりに継続しつつあります。

◇生かせアナログを◇

アナログこそ武器に

年配経営者の多くは、自他ともに認めるアナログ人間なのでしょう。ところがこのアナログこそ地域社会に溶け込み、施主の胸襟を開き、真の信頼信用を得て来た過去があります。住宅業界も時代は、怒涛のように変革していますが、このアナログの持つ不思議な神通力を失ってははいけません。

アナログには、家づくりに必要な、優しさや愛おしさを活かす事が出来ます。

◇住宅産業は政策的な一面も◇

経済を牽引する住宅産業

我国では、既に何百万棟もの空き家問題があり、完全に家余り時代だと云われています。住宅産業は、景気浮揚のための基幹産業に位置付けられており、経済環境を向上させるための政策的な一面もあることは明らかです。

一戸の住宅を造るためには、測量、解体、地盤改良、掘削、型枠、鉄筋、コンクリート、木材、大工、左官、屋根、外壁、内装、建具、それに設備などを入れると実に裾野の広い産業が稼働します。

GDP（国民総生産）を向上させるには、住宅産業を政策的に向上させることで経済環境を調整することも出来るのです。

空き家問題の深刻化する中でも新築住宅が確実に建築されているのは、多分に政策的な一面が影響していると思われれます。

◇身近にいる地域工務店◇

地域密着工務店の存在感

空き家問題を抱えながらも私達地域工務店は、家づくりを生業としています。地域密着工務店の強さは、ハウスメーカーと異なり、必ずしも新築だけでなくリフォーム工事なども得意とします。

お施主様の直ぐ近くに存在し、いつでも対応できる機動力を備えています。地域工務店には、多くの協力業者さんが備わっており、大工工事だけでなく、電気水道、設備関連など普段でも出動要請の多い業種も控えています。

この小回りの良さをアピールして行くことで地域工務店の存在感が増します。

◇付加価値の高い家づくりで◇

お施主様の幸せづくりを

量より質（クオリティー）が求められる時代となり、アナログとデジタルを交互に活かせる時代でもあります。

それには作り手側の優しさや真心が込められたアナログと、利便性と迅速さのデジタル融合を果たして行かなければなりません。

その上でもっとも重要なのは、お施主様が住んだ家で本当に幸せになれたかどうかです。家は、竣工してお引き渡しをし、お施主様が引っ越しして直ぐに身体で感じる不具合があるものです。家は生き物と同じであり、お施主様をお迎えしてから施工工務店は一緒に育てて行く信念が必須となります。

ファースグループ工務店は、今年も付加価値の高い家づくりをしっかりと実践して参ります。

（著・ファース工法開発者・福地脩悦）